# 令和5年度いじめ撲滅標語コンクール受賞作品

## ☆最優秀賞

### 「やってない」　判断するのは　君じゃない

横路中学校一年　中松　野々香

■作者より
ふざけていたつもりでも、嫌な思いをしている人が「いじめ」だと思えば、それはいじめであり、判断するのはその相手じゃないという思いで標語を作りました。

■審査員より
・いじめかどうかは、いじめを受けた側の心の傷つきで判断するという大切な考え方が、表れていると思いました。
・相手がいじめの判断基準になるといういじめの定義の一部を再確認できると感じました。
・いじめる側の立場ではなく、相手の側に立った言動をしていきたいですね。

## ☆優秀賞（小学生部門）

### 一人でも　「独り」にしない　思いやり

昭和中央小学校六年　藤原　光希

■作者より
私は一人は人数が1という意味だけど、「独り」は「孤独」の二文字にもあるさみしい「独り」なので、積極的に遊びに誘ったりして「独り」をなくし、いじめをゼロにできたらいいなと考えました。

■審査員より
・いじめという視点だけでなく、独りぼっちをつくらないという仲間意識が感じられます。
・「独り」では人は生きていけないことを改めて自覚させる優れた作品です。
・「一人」と「独り」を使い分けたことで、孤独な印象をイメージしやすかった。

## ☆優秀賞（中高生部門）

### その言葉　あなたの家族に　言えますか？

和庄中学校二年　奥垣　有理

■作者より
もし、自分の大切な家族・兄弟・友人が暴言を吐かれたら自分はどんな気持ちになるのだろうと考えました。一人一人がこのように想像をはたらかせたら、イジメはなくなるかもしれないと思いつくりました。

■審査員より
・普段何気なく使っている言葉でも、家族などの大切な人に対して言えるかどうかという視点で考えることで、傷つけるのを防ぐことができるということがよく分かります。読み手の心にダイレクトに訴えかけるような表現も好印象でした。